

中間報告会を終えて

2月6日(木)3期生の中間報告会を開催しました。教職大学院での1年間の学びを踏まえて次年度から行う長期実習(現任校実習または連携協力校実習)の構想に関するポスターセッションによる発表でした。授業で学んできた理論、各長期実習で得られた知見をもとに、自身の学修テーマをどのように探究していくのかがわかりやすくポスターに表現されており、参加者からは活発な質問や意見が出されていました。また、2期生だけでなく、他大学院からご参加いただいた方もあり、新たな気づきを生むことができました。

教員側からは、方法論を大切にすることや、先行研究をよく検討してさらに新しい何かを探究することなど、研究を深めることの重要性について、話がありました。

3期生の学修テーマと、中間報告会を終えての感想を紹介します。



名 前	学 修 テ ー マ
大井 賢	学び合う教職員組織づくりに関する実践研究 —まずは現状や教職員一人ひとりの思いを知ることから—
尾上 佳代子	「社会に開かれた教育課程」の実現からうまれる学校・地域創生 ～「地域とともにある学校」をめざして～
加藤 大輔	「ふりかえり」に着目した授業改善の実践的研究
川上 文香	真の「対話」を生み出す学級経営・授業づくり ～「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて～
川上 美由紀	小学校と中学校の連続性の研究 ～不登校未然防止のための支援を考える～
濱口 美佐	A Study on Writing Strategies —英語で自分を表現する力をつけるために—
藤川 純子	発達課題のあるCLD児のための適切な支援を考える —アクションリサーチを通して—
山本 裕史	重度・重複障害児の対話のあり方とその支援 —視線入力装置を活用した共同注意行動の発現を通して—
吉岡 竜吾	教科等横断的な視点に立った学習による「活用する力」の育成
西田 郁也	学級活動における学習プロセスの開発 —集団と個の関係に着目して—
西田 有貴	実際のコミュニケーション場面で活用できる英語技能の育成 ～教室環境と扱う内容に着目して～
前葉 愛理	対話による共生的な国語科授業作り ～自他との「書く対話」に着目して～

1年目の総括に感謝を込めて

第3回中間報告会は、私たち3期生の一年間の研究の総括である。作成したポスターをあらためて見ると、自身がどれほど多くの方から学ぶ機会をいただき、ご協力いただいたかが見えてくる。感謝の気持ちでいっぱいである。自身の人生において、おそらくもうこのような機会はないと考え、みなさんからいただいた一言一句をより貴重なものとして感じる。今後の方向を決定していくためのものとして整理し、さらに研究の中核へと進んでいきたい。ご指導、ご協力いただいたみなさまにあらためて感謝申し上げます。

尾上佳代子（学校経営力開発コース3期生）

ポスターセッションでは、これまで学んだことや今後の研究計画を中心にまとめ、発表しました。ポスターにまとめることは、パワーポイントで発表することとは違う難しさや面白さがありました。

たくさんの方々と、ポスターを通じて対話する中で、新たな学びが生まれました。今後の研究の参考になる意見をたくさんいただき、充実した中間報告会となりました。

川上 文香（学校経営力開発コース3期生）

『対話による共生的な国語科授業作り—自他との「書く対話」に注目して—』のテーマで発表させていただきました。12月から毎週木曜の午後、直前には複数のゼミで検討を重ね、先生方や2期生3期生の方からの助言で、研究や附属実習での学び・来年度からの学修の展望を言語化・図式化できました。いただいたフィードバックや近いテーマの方の発表から見出せた自分の新たな課題に向け、連携校実習・東紀州実習でさらに探究していきたいです。

前葉 愛理（教育実践力開発コース3期生）

授業風景～集中講義「現代カリキュラム論」～

12月24日から4日間にわたって、集中講義「現代カリキュラム論」が行われました。講師は福井大学からお招きした遠藤貴広准教授、対象は3期生です。

院生それぞれの教育実践研究の展開の中でのカリキュラムをめぐる課題について、遠藤先生がそれらの背景となる研究の推移や最新の動向、また、参考となる著書等をお話くださるというスタイルで授業は進められました。「複数で教科を受け持つ場合の児童生徒の評価をどのように考えたらよいか」「学校の教育目標を具現化するようなカリキュラムをどのようにつくっていくのか」というような現実的な課題について、先生は一つ一つ丁寧に聞き取り、多岐にわたって関連する事項をお話くださいました。研究にとどまらない豊かな知識とそれらを批判的に問い直す先生のお考えに触れ、時間があっという間に過ぎました。また、講義の内容に関わって、あるいは先生のちょっとした受講生への言葉かけから、異なる立場や文化を広く受容し、尊重する姿勢を強く感じました。「異質なものと触れ合うことで学びが深まる」という先生のお言葉は大変印象に残りました。自らの実践とこれまでの研究成果との関連を丁寧に教えていただいたことで、新たな視点で実践を振り返ることができるような内容でした。



【院生の感想】

福井大学の遠藤貴広先生をお招きしての講義でした。本講義の学習プロセスは、私たちがカリキュラムをめぐる課題等を出し合い、それに対して、遠藤先生がお持ちの課題解決に活かせるような実践知や学問知を紹介してくれることで、その中から各自関心のあることに対して自主的に学習を行うものでした。そのような中で、自身の学んできた内容を振り返り、そして展望に対する新たな思考の変容を得ることができた意義深い講義でした。

日本の学校は世界で一番学校間格差が大きく、学校内多様性が低いということを知りました。これまで一般的に行われてきた均質的な集団での一斉指導は、学問的な知識を教師が児童・生徒に伝えるには適していましたが、子どもたちの主体的な経験を中心に対話的な学びを深めるこれからの時代の教育においては、異質なものに対する寛容と理解のある多様性が必要であることが分かりました。福井の教育の一端にも触れることもできました。

編集・発行 三重大学大学院教育学研究科 教職実践高度化専攻（教職大学院）広報担当

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町1577

✉ info-mkd@edu.mie-u.ac.jp

三重大学教職大学院ウェブサイト <http://mkd.edu.mie-u.ac.jp>